

日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 IUPAP分科会 更新日 2012/9/28
(2009/05/01の形式)

国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際純正及び応用物理学会連合
(欧文) International Union of Pure and Applied Physics
(略称) IUPAP

日本学術会議加入年(西暦) 1931 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) Council AND Commission Chairs meeting

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Cecilia Jarlskog	Bruce McKellar	Kimitoshi Kono	Stuart Palmer
(国)	Sweden	Australia	Japan	UK

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

IUPAP総会での投票による。任期は3年。

加入国・地域の数 60ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列挙)

日本、米国、ドイツ、フランス、英国、ロシア、イタリア、中国、カナダ、スイス

国際学術団体のホームページURL <http://www.iupap.org/>

国際学術団体の年間運営経費

450,000ユーロ

日本の分担予定額[事務局で記入]

3,108千円(2012年度)

国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2012	The 31st. International Conference on the Physics of Semiconductor	Zurich, Switzerland			無
2012	The 19th International Conference on Magnetism	Busan, Korea			無
2011	32nd International Cosmic Ray Conference	Beijing, China	690		無
2011	26th International Conference on Low Temperature Physics	Beijing, China	1252	366	無
2011	XXVII International Conference on Photonic, Electronic and Atomic Collisions	Belfast, UK	600		無

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2012	理事会	南アフリカ共和国 ケープタウン		河野公俊	
2011	総会	イギリス ロンドン、英国物理学 協会(IOP)	31	前川 禎通	2
2010	理事会	インド ニューデリー		前川 禎通	
2009	理事会	米国 シカゴ		前川 禎通	
2008	総会	日本 つくば市			

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

1) IUPAP General Report (3年毎)

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

国際機関等の提唱で行った活動
2005年にIUPAPに対し、IUPAP若手物理学賞の設置を提言し承認される。この賞は、各年に1名、博士号取得後8年以内の研究者に贈られ、IUPAP主催の会議において表彰するとともに、招待講演を行ってもらうものである。選考と表彰は各コミッションにより運営される。また、IUPAPには物理での女性の地位向上を図るために「Women in Physics」ワーキンググループが活動している。2011年4月にケープタウン（南アフリカ）でこの国際会議が開催され、59カ国から223名が出席した。なお、日本からの参加者は5名であった。
国際機関等への提言等
IGSUに対して種々の提言を出した。
国際事業等への参加・実施等
2005年にはThe World Year of Physics 2005を組織。
全世界的/地域的研究課題への取組み
IGSU and Polar Research (1957～) IGSU and Climate Science (1962～)
発展途上国への対応
Commission on Physics for Developmet (2005) を開催。

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

物理学を履修する学生が、小、中、高校と大学レベルで世界的に減少していること。
--

国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
IUPAP前会長	潮田 資勝	2011	2014
IUPAP副会長	河野 公俊	2011	2014
IUPAP-C6 コミッション委員長	吉川 研一	2011	2014
IUPAP-C10 コミッション委員長	藤井 保彦	2011	2014
IUPAP-C11 コミッション委員長	相原 博昭	2011	2014

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 IUPAP分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

物理学委員会の下にIUPAP分科会を設置。この分科会は総合工学委員会とも連携を取ることになっている。

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本物理学会	18000	http://wwwsoc.nii.ac.jp/jps/
日本応用物理学会	25000	http://www.jsap.or.jp/

学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名
所属分野別委員会

IUPAP分科会
物理学委員会

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
河野公俊	森 正樹		

会員数	連携会員数	特任連携会員数
2	11	0

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

科学における女性共同参画促進に関してIUPAPのサポートのために国内グループを組織

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2012/1/17	第22期・第1回IUPAP 分科会を開催して、今期の活動方針などについて検討した。

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

関係学会と連携し国際学術団体の活動の周知・広報を行っている。

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

日本物理学会、日本応用物理学会、日本磁気学会、プラズマ核融合学会、日本天文学会、日本数学会と連携。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

1. IUPAPには専門領域ごとに18のコミッションが組織され、そのうち16のコミッションで日本の委員が活動している。さらに5つのコミッションで、日本の代表が委員長を務めている。IUPAPにおいて日本が果たしている役割は非常に大きい。
2. 国際会議の開催に関して、科学者の自由な参加を奨励し、各国の政府に対してビザ発給などにおいて障害を与えないよう勧告して成果を得た。